



皇學館 学園報 第28号

発行・編集
学校法人皇學館(総務課) TEL0596・22・6308

伊勢学舎 [法人本部・大学院・専攻科・文学部・教育学部・現代日本社会学部]
〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704番地
TEL0596・22・0201(代) FAX0596・27・1704

名張学舎 [大学院・社会福祉学部]
〒518-0498 三重県名張市春日丘7番町1番地
TEL0595・61・3351(代) FAX0595・61・3350

高等学校・中学校 三重県伊勢市楠町138
【高校】〒516-8577 TEL0596・22・0205(代)
【中学】〒516-8588 TEL0596・23・1398(代)

●今号の注目記事

1面 6・7・8号館(教育研究棟)が完成

2面 学生インタビュー
日本文化の担い手に

3面 第42回 解釈学会全国大会を開催

4・5面 学生責任編集ページ
名作『潮騒』の舞台・神島を歩く

6面 高校・中学
姉妹校提携を更新(高校)

7面 館友会全国大会を開催

8面 英国短期留学体験記

●連載

2面 皇學館人物列伝⑨ 伊藤正雄

3面 リレーエッセイ 私の学生時代
大島信生(国文学科教授)

7面 先輩、お元気ですか
山中てる子氏
(国史学科第2期・昭和42年卒)



新しい校舎は地上5階建2棟(7号館・8号館)、3階建1棟(6号館)からなる。最先端の教育施設としての機能と学生たちのコミュニケーションの場としての役割を併せ持ち、今後の教育活動の核となる学舎である。

創立三〇周年・再興五十周年記念事業 六・七・八号館(教育研究棟)が完成

本学の創立一三〇周年・再興五十周年記念事業の一環として平成二十二年二月から工事が進められていた六・七・八号館(教育研究棟)が完成した。講義棟二棟、実験・実習棟一棟が連なる、延床面積約二六二〇坪を誇る施設だ。再興時に最初に建てられた旧一号館の精神的シンボルとしての役割を継承しつつ、新しい時代における皇學館教育の拠点として大きな期待が寄せられている。

完成への感謝の念をご奉告

八月二十七日、澄み渡る青空のもと、真新しい八号館(教育研究棟)五階の音楽室にて竣工祭が盛大に執り行われた。佐古理事長や伴学長など本学関係者をはじめ、設計・施工を担当した日本設計、大成建設各社の代表者、また学生を代表して神道学科の学生などが出席。厳かな雰囲気の中、無事に完成したことへの感謝の気持ちを奉告するとともに今後のご加護を祈願した。また式中では音楽部によって「浦安の舞」が奉納された。



完成を感謝し奉納された「浦安の舞」。

終了後は出席者に館内の案内が行われ、出席者は興味深そうに各教室や設備を見て回っていた。その後、二階の図画工作

窓から樹齢五十年のソメイヨシノを一望

六・七・八号館は鉄筋コンクリート造りの五階建ておよび三階建て。全体の延床面積は約八六六四平方メートル(二六二〇坪)で、外観の色彩は先に完成した総合体育館と同じく「白」を基調として統一感を持たせている。

教育研究の設備が充実

六号館は一階に学生ラウンジとオープンスペース、二階には三〇〇人教室と二二〇人教室、三階には六十台のパソコンを設置した情報処理教室を設け、新一号館および来年十月に完成する研究棟における学内LANの拠点となる。ラウンジを設けたのは学生同士のコミュニケーションがさらに活発になるようとの配慮からだ。また、三階へと続く階段は吹き抜け構造となっており、開放感も抜群。ゆとりある空間の中で学びのびとキャンパスライフを満喫できる設計となっている。

七号館は二二〇人・一〇〇人・五十人教室をあわせ計十三の普通教室を配置。すべての教室に映像・放送設備が完備され、学生がより理解できるような視覚化、イメージ化された授業を展開する予定だ。

八号館はおもに教育学部の実験・実習棟として使用される。年々レベルアップする教員採用試験の動向を見据え、図画工作室や被服室、保育実習室、心理学教室など専用の教室を設置。五階には電子ピアノ五十台と最新のオーディオ機器を備えた音楽教室のほか、防音と空調設備が整っているピアノレッスン室が十八

6号館 講義棟
総面積 1,491㎡(451坪) 地上3階建
設備 1F ●学生ラウンジ 2F ●講義室 3F ●情報処理教室・情報事務室
7号館 講義棟
総面積 3,766㎡(1,139坪) 地上5階建
設備 1F ●講義室 2F ●講義室・多目的トイレ 3F ●講義室・ラウンジ 4F ●講義室・多目的トイレ 5F ●教員室 各階 ●エレベーター・男女トイレ
8号館 実験・実習棟
総面積 3,293㎡(996坪) 地上5階建
設備 1F ●保育実習室・体育実習室・各準備室・幼児用トイレ 2F ●図画工作室・準備室・工作機械置場・作品倉庫・展示コーナー 3F ●被服実習室・調理実習室・心理学教室・各準備室 4F ●生物実験室・化学実験室・物理実験室・各準備室 5F ●音楽教室・準備室・ピアノ練習室・個人指導室 各階 ●エレベーター・男女トイレ

建設の順から講義棟はそれぞれ六号館、七号館、実験・実習棟は八号館と呼ばれ、本学再興のシンボルであった旧一号館の精神的役割を受け継ぐ建物でもある。既存の一号館は熱意あふれる講義の中で建学の精神を語り伝えてきた思い出深い学び舎だけに惜しむ声も多かったが、約五十年の歳月を経て老朽化が進み耐震上の危険も指摘されたことから取り壊しが決定。来年の十二月に工事が行われる予定だ。しかし、建物はなくとも、六・七・八号館の渡り廊下の窓からは幾代の諸先輩方が眺めたであろう樹齢五十年のソメイヨシノが一望でき、当時の面影を伝えている。



3階へと続く階段は吹き抜け構造となっており、開放的な空間が広がっている。



50台のピアノが並ぶ音楽室。

も対応。エレベーターや多目的トイレ、教室には車椅子スペースが設けられている。また、日射の影響を抑える高性能ガラスや庇の役割を果たす格子状の構造フレームを採用するなど環境にも配慮した。来年十月の完成が見込まれている新研究棟とも渡り廊下で結ばれるなど、教学の場として一層設備を拡充させていく予定だ。

木犀の香りが漂う。何度か、極暑の記録を塗り替えた、今年の夏。やがて木枯らしが吹き始める。「笛の音を」(源氏物語・常木聴くが如く、心を澄ますのもよい。生きとし生けるものの、物言わざる者の変化は、紅葉の深まりにも確実に現れる▼今年の大学祭、両学舎の統一テーマを、「結」という。意味深く、重い言葉である。「結果」「結実」「結集」「結縁」「結晶」等。用例からも推測できるように、力を合わせて物事を成し遂げようとする姿勢があり、また最後の「しめくり」の意味がある▼来年四月から皇學館大学は、伊勢キャンパスに統合される。新一号館の白亜の殿堂は、一段と輝きを増すだろう。しかし、十三年間に培われた名張市民と名張学舎との交流の成果と信頼の絆は、もちろん大切にされなければならない▼十月三日(日)、学生を中心とした「リーダーズ研修会」が伊勢学舎倉庫会館で行われた。「学舎間の交流を通して今後の活動を考える」というものに、クラブ・サークルの活動を念頭に置いたものだが、その潮流の相乗が、学舎の将来を、さらに飛躍させてくれるのを感じたい。



学生インタビュー

日本文化の担い手に

書道グランプリで大賞受賞——鳥居千恵さん 裏千家ハワイセミナーに参加——谷崎 恵さん

この夏、本学の学生が書道・茶道それぞれの分野で活躍をみせた。これからの日本文化を担っていく存在として、それぞれの活動や将来の思いについて伺った。

“自分を表現できる書体”で 念願達成

大学院文学研究科博士前期課程の鳥居千恵（雅号・桂祥）さんは今夏、学生書道のグランプリ「第十五回全日本高校・大学生書道展」（読売新聞社、公益法人日本書芸院主催）の漢字部門「楷書体」にて最高賞にあたる大賞、「調和体」にて優秀賞を受賞する快挙を成し遂げた。

大賞の作品は、中国・北魏の頭影碑で六朝楷書の代表的書跡「張猛龍碑」の一文を題材に制作したものだ。鳥居さんの作風は線の強さが特徴。今回の受賞作は、字面の良さと墨量の変化などに独自のアレンジを施し、何度も調整しながら一カ月半かけて仕上げたという。



鳥居さんが書道を開始したのは小学校のとき。大学の恩師・上小倉一志国文学科准教授（雅号・積山）の影響で楷書体の北魏様式に出会い、野趣あふれる力強い書体の虜に

「一碗から世界へ」 茶道を通じて国際交流

茶道部部長の谷崎恵さん（文学部コミュニケーションシヨン学科三年）は裏千家今日庵・茶道裏千家淡交会主催の「裏千家ハワイセミナー」（七月十八、二十五日）に参加した。同セミナーは、海外へ茶道を普及する活動の一環として毎年開かれており、

谷崎さんは顧問・浅沼教授の勧めを受けて応募。全国で十三名の招待学生になった。「楷書体（北魏様式）は、自分を表現できる大きな存在」と語るが、「今後は多くの書体に挑戦し、幅広い作品づくりをしていきたい」と鳥居さん。なお同展には六回連続の応募。大学時代の四年間は優秀賞、昨年は展賞を獲得している。



「大宗匠にお会いできて感激しました」と谷崎さん（後列右から4人目）。

交流のプログラムが盛りだくさんだったとか。大学に入ってから茶道をはじめ、その魅力にはまった谷崎さん。研修を通じて、外国にも茶道文化が浸透していることに驚いたというが、一方で

「もてなす心は世界共通だ」とも再認識。将来は英語教員を目指す谷崎さん。今までの経験を通じて「日本の伝統文化をしっかりと理解した、国際感覚豊かな子どもを育てていきたい」と語ってくれた。

常務理事退任に当たって

宗林 正人

在任期間/平成12年8月27日～22年8月26日



平成十六年七月理事会のあと、来る平成二十四年には創立一三〇周年・本学再興五十周年の節目を迎えるにあたり、学園の諸施設の整備、増設、拡充を図り、教育研究の発展と充実をはかるための記念事業が計画され、記念事業推進委員会が結成されました。総額三十億円を掛けての大事業となりますので、学園内外からの募金をお願い

することがになりました。特に神社界では、全国的な募金のための組織作りをしていただきました。が、併せて卒業生の会や在学生の尊の会、教職員や関連企業の各方面のご賛同も得て、募財活動が開始されました。

私は各県神社庁を通じて、本州一円の各神社に趣旨説明と協賛をお願いしてまいりました。大社は別としても、中には災害による神社の修理中やご造営中のごところもあり、寄附依頼するのを躊躇うごところもありました。

幸いにも各界の絶大なご支援を得て、目標額を遙かに上回る浄財を寄せ

経費多端の中にも関わらず、本学のために特別のご寄附をしていただいたごところもありました。卒業生のお宮で自社の運営さえも困難な中から、母館の発展を祈念して寄附して下さった浄財もあります。本当に感謝して活用させて頂かねばなりません。世に言う「少欲知足」、すなわち足りていることを知ることが大事だと思えます。再興当初の厳しい経営内容を見聞してきた私には、現状は夢のようです。感謝の念をもって、平常業務の中でも経費節減の工夫が必

要です。丁度この時期に私の任期が満了となりましたので、任務を終えて退任させていただきます。各界からの絶大なご支援に深く感謝し、お世話になりました方々に篤くお礼申し上げます。陰ながら本学園の益々の発展と教育・研究上の更なる充実、特に精神教育による

本学の使命の達成されることを祈念しています。

同僚の往来が多かった。しかし、昭和二十年の空襲で家屋・蔵書を焼失することになった。伊藤の名を学界に知らしめたのは昭和十七年の『小林一茶』（三省堂）で、その刊行は頼原退蔵の勧めによる。また、文学史の構築にも力を尽くし、後年『要説日本文学史』や『忘れ得ぬ国文学者たち』を著している。後者には皇學館ゆかりの人物も多く登場する。昭和二十五年以降は福沢諭吉を中心とする評論文学の研究に軸足を移した。これは、先の空襲で研究資料を失ったための方向転換のひとつであった。

皇學館 人物列伝 9

伊藤正雄

いとう まさお

国文学者、文学史研究に尽力



伊藤正雄は明治三十五年大阪市に弁護士山口房五郎の次男として生まれたが、生後直ちに同じく弁護士であった伊藤徳三の養子となった。その後、伊藤博文の幕下で代議士となった養父に従って、東京・麻布中学に学ぶも、養父の引退に伴って大正七年に大阪・北野中学へ転校する。このころ、北野中学には三重県・第四中学（現宇治山田高校）から転入した梶井基次郎がいたが、交渉については未詳。伊藤には北野中学が官僚的で良い印象の学校ではなかったと自作の年譜に記している。卒業後、三高文科甲類へ進学。

大震災の翌年でもあり、東京帝大文学部の研究室がほぼ壊滅していた影響もあって、同級の多くは京都帝大へ入学し、この年の東京帝大国文学科入学者は伊藤ひとりであった。帝大で最も影響を受けたのは俳諧史を講じていた沼波瑠音であった。卒業論文は「文章の研究」。卒業と同時に、上田萬年・藤村作の推挙により神宮皇學館に講師として赴任。昭和二年、伊藤が二十六歳のときであった。翌年教授となる。沼波は自身の研究の集大成を伊藤に託すつもりであったらしいが、伊勢への赴任が決まって極めて落胆したという。

皇學館では国文学史、俳諧、近世文学等を担当した。伊勢着任後、俳祖・荒木田守武についても研究を進める。同僚には千田憲・酒井秀夫ら

たという逸話が残されている。文学部准教授 齋藤 平

就任のご挨拶

任期/平成二十二年八月二十七日～平成二十四年八月二十六日

新常務理事 井面護

少子化が進み大学を取り巻く環境が厳しい今、一地方において優秀な学生を確保するには他大学にはない魅力、特徴を持つことがますます重要になってきます。本学の特色は神道を根幹とする建学の精神、まもなく創立一三〇周年・再興五十周年を

迎えるという長き伝統にあることはいまでもありません。また、再興以来採用している指導教員制の賜物か学生と教職員との和気藹々とした雰囲気、礼儀正しい校風はほかにはないものと自負しております。これら先人が培ってきた古き良き伝統を

護りつつ現代の学生のニーズに合った環境を整え、優秀な人材を確保、育成、輩出していくことが大きな責務と考えます。神職としての経験を活かしつつ、みなさんのご支援、ご協力を仰ぎながら職務を全うしていく決意です。



井面 護 (65歳)

皇學館大学文学部国史学科卒業

熱田神宮奉職

神宮奉職

神宮禰宜

神社本庁評議員

神職身分一級

学校法人皇學館財務部長 平成22年8月26日まで

いとう まさお ◆大阪府生。東大国文学科卒業後、神宮皇學館に赴任。国文学史、俳諧近世文学を担当する。後年は甲南大学、天理大学、神戸女子大学などで教授を務めた。著書に「小林一茶」「福沢諭吉論考」「忘れえぬ国文学者たち」など。明治三十五（一九〇二）昭和五十三（一九七八）年。

皇學館では国文学史、俳諧、近世文学等を担当した。伊勢着任後、俳祖・荒木田守武についても研究を進める。同僚には千田憲・酒井秀夫ら

たという逸話が残されている。

文学部准教授 齋藤 平

第四十二回 解釈学会全国大会を開催

解釈学会は、国語・国文学／国語教育に携わる小・中・高・大の教員の全国組織で、昭和三十年創刊の機関誌『解釈』は学界への登龍門として、教育者、研究者の交流の場として、多くの功績を残してきた。その、第四十二回全国大会が八月十九日、二十日の両日、伊勢の地で開催され、本学会が会場となった。

本学から二名が研究発表

大会初日となった十九日の会場は本学伊勢学舎。午前には研究発表、午後は「三重と文学」をテーマに公開シンポジウムが開催された。



白熱した雰囲気にもまれたシンポジウム。鈴木伊勢市長も挨拶に来場した。

作品で印象に残っているものを尋ねたアンケートの結果をもとに、なじみ

三重という風土に触発

「三重と文学―古代から近代まで―」を演題にした午後の公開シンポジウムでは本学国文学科の半田美永教授がコーディネーターとなり、近畿大学教授の村瀬憲夫さん(上代)、帝塚山大学名誉教授の鶴崎裕雄さん(中古・中世)、元金城学院大学教授の片山武さん(近世)、奈良女子大学名誉教授の濱川勝彦さん(近代)の四人のパネリストが持論を展開した。

「国語教育」の分野では教育学科の中條敦仁助教が「教材と授業展開の傾向に関する試論を発表。大学生・短大生四三三名を対象に小・中・高の国語の教科書に載っていた

熱弁をふるう中條助教。

その一人、中世の和歌や連歌を中心に論じた鶴崎さんは「他の地域と比べ神祇と水辺(海)の句が多い」と三重の特徴について語り、伊勢信仰や地域風土との結びつきを指摘した。濱川さんは名張出身の江戸川乱歩や忍者を軸に『梟の城』を執筆

やすい教材を使用し、能力の定着を図ることの有効性や文学教育の重要性を説いた。



シンポジウムでは活発な質疑応答が行われ、盛況のうちに終了することができた。

した司馬遼太郎などを例にとりながら、出身作家・来訪作家いずれにとっても「三重という磁場に引き寄せられた人が多い」と語った。そして、伊勢神宮やリアス式海岸に代表される風光明媚な土地柄、芭蕉や宣長など先人への関心が作品づくりに大きな影響を及ぼしている

と示唆した。参加した熊本県立大学文学部教授の半藤英明さんは「地域の文学を掘り起こすことは非常に意義深い。今後は見出しもその地だけにとどまらず、さらに広がりがある。価値」としてつなげていくことが大事だし、そうした可能性を持つ会

だと思つ」と大会を振り返った。同志社女子大学大学院研究生の黒河悦子さんは「わたしの専門が近代なので、今日は上代や中世の文学、近代との関連性などについて興味深い意見が出て面白かった」と感想を話していた。

翌二十日は「伊勢の文化力」と題して実地踏査が行われ、西行遺跡である安養寺や神宮文庫、松阪市の本居宣長記念館・鈴屋遺跡など五カ所を訪ねた。とくに県外からの参加者は遺跡の多さや文化的景観に改めて驚いた様子で、熱心に見入っていた。

恒例の「神社関係者懇談会」を開催

恒例の「神社関係者懇談会」が九月十七日夕方から鳥羽国際ホテルで開催された。この懇談会は神社界と関係が深い本学が平素からのご支援と

協力への感謝と懇親をはかるため、毎年、神宮大麻暦頒布祭に参列される神社関係者を招き行っているものだ。この日は神宮から大宮司

四名が出席した。はじめに佐古一洸理事長から感謝の言葉とお礼が述べられ、今年度から新たに開設された現代日本社会学部に続々

恒例の「神社関係者懇談会」を開催

恒例の「神社関係者懇談会」が九月十七日夕方から鳥羽国際ホテルで開催された。この懇談会は神社界と関係が深い本学が平素からのご支援と

協力への感謝と懇親をはかるため、毎年、神宮大麻暦頒布祭に参列される神社関係者を招き行っているものだ。この日は神宮から大宮司

四名が出席した。はじめに佐古一洸理事長から感謝の言葉とお礼が述べられ、今年度から新たに開設された現代日本社会学部に続々

協力への感謝と懇親をはかるため、毎年、神宮大麻暦頒布祭に参列される神社関係者を招き行っているものだ。この日は神宮から大宮司

四名が出席した。はじめに佐古一洸理事長から感謝の言葉とお礼が述べられ、今年度から新たに開設された現代日本社会学部に続々

上杉千郷氏偲ぶ会に四百名が参列

六月三十日に逝去した本学人担任顧問・上杉千郷氏を偲ぶ会が八月三十日、名古屋市熱田神宮会館で執り行われ、神社界をはじめ教育界など全国各地からおよそ四百名が参列。故人の冥福を祈った。

正午から始まった会では祭壇の遺影の前で玉串奉奠を行った後、上杉氏の在りし日の姿を映像でつづったDVDを上映。続いて挨拶に立った



およそ400名が参列し、執り行われた玉串奉奠。

佐古一洸理事長は、「神道精神に副った教育の実践こそが先人の意思を継承することであり、そうした独自の発揮が唯一皇學館の発展の道である」と氏が日頃より口にしてきた理念に触れ、「先生の目指された道を全学一丸となって邁進する覚悟です」と力

強く述べた。鷹司尚武神宮大宮司は茶事を通して多くの人々と心の輪を広げておられたこと、また、神宮評議員や神宮参与として神宮奉賛活動に尽力していたことを挙げ、「永年に亘り神宮崇敬の赤誠を捧げられました上杉さんのご遺徳を偲びます」と別れの言葉を述べた。その際、鷹司氏が四、五歳の頃、素っ裸で氏を玄關で出迎えたという幼い日のエピソードを披露し、「思えば、あれが最初の裸の付き合い」と笑いを誘いながら、「温もりのある方で最後はご子息である上杉千文氏からお礼の言葉とともに奨学金の一部に役立ててほしい」と金三百万円の寄付目録が佐古理事長に手渡された。その後直会へと続き、参列者は上杉氏の思い出話に花を咲かせていた。

私の学生時代

万葉集とともに



大島信生 国文学科教授 皇學館大学大学院修了

私が大学に入学したのは三十四年前。爾来、今日まで上代の国語と国文学、特に万葉集を研究の中心に据えてきた。大学は、奈良県の天理大学で、万葉集の研究に所属し、蜂矢宣朗先生の指導を受けた。諸本の異同を調べ、用例を精査し、本文と訓、そして解釈を導いていくという訓詁注釈に基づく研究であった。研究会では、従来の説に満足することなく新しい解釈を試みられ、万葉集研究の魅力に引き込まれていった。

私の学生時代

万葉集とともに

皇學館大学大学院の入学は、大学時代に故西宮一民先生(本学元学長)に教えを受けたことが一番の理由である。一年生の時に、非常勤講師として万葉集の講義を担当されたのが西宮先生であった。この縁で本学大学院に進学させていただくこととなった。大学院博士前期課程在学中は、西宮先生が『万葉集全注』巻三の執筆時期にあつていたので、講義も巻三を中心に行われていた。私が発表したことも、私の説として取り入れて下さった。後期課程

の頃にその『全注』の校正の手伝いをさせていただいたことも、大変勉強になった。西宮、蜂矢両先生は、万葉学の泰斗、故澤瀉久孝博士(本学元教授)の京都大学における門下生であった。本学図書館には西宮先生の尽力により、澤瀉博士の旧蔵書が収められている。その蔵書に博士の筆による書き入れを目にすることがある。博士の学問に身近に接する思いである。博士前期課程の時に、京都女子大学で開催された万葉学会全国大会で研究発表をさせていただいた。未熟な内容ながら貴重な経験であった。それから二十九年後の本年五月、京都女子大学国文学科の公開講座の講師を務めさせていただいた。同じ教室ではなかったと思うが、感慨も一人であった。思えば、今日まで多くの先生方、先輩方の指導、助言を得て研究を進めていくことができた。本学の教壇に立たせていただくことに感謝し、多くの学生に万葉集の魅力、国文学の魅力伝えていきたいと思う。



目録を受け取る佐古理事長。



鳥羽の佐田浜港にて出発前のミーティング。



直さないのが神島のいいところ?!



港近くの堤防で釣りを楽しむ学生たち。



かなりハードだった山歩き。



夜にはお楽しみの懇親会を開催! 途中からは島の漁師の方たちなども加わって、深夜まで大いに盛り上がった。



神島の名所スポット



●八代神社
毎年元旦未明に行われるゲーター祭をはじめ、年間を通してあらゆる行事の起点となる神社。神島に住む人々にとってはなくてはならない存在となっている。境内までの階段は全部で214段。



灯台から渥美半島を望む。

●神島灯台

島の東側に位置する神島灯台。目の前に広がる伊良湖水道には大型タンカーや漁船などさまざまな種類の船が行き交う。日本の灯台50選に登録されており、最近では「恋人の聖地」に認定されたことで若いカップルの姿も多くなっている。



「潮騒」で新治と初江が抱擁するクライマックスの場所として訪れるファンは多い。

●カルスト地形

遊歩道のちょうど中間地点、島の西側に位置する。木々のトンネルを抜けると突然視界が開け、海風が身体をめがけ吹き込んでくる。石灰質の岩山はその海風が作った自然の産物だ。



●監的哨

伊良湖から発射された砲弾を観測するため、旧陸軍が建てた施設。2階の窓から見える景色は壁がフレームとなってまるで絵画のよう。屋上には疲れを一瞬にして吹き飛ばしてくれる絶景が待っている。映画「潮騒」のクライマックスシーンに登場することでも有名。昔の作品だが、島を訪れる人の中には、映画の舞台を見ようとやって来る人も多いとか。

神島を訪れるなら必読!

三島由紀夫作『潮騒』

歌島(※神島のこと)は自然に恵まれた小さな離島。細々と漁師を営む青年・新治は島に戻ってきたばかりの海女の娘・初江と出会い、惹かれあう。嵐の日に焚き火の前で愛を確認しあった二人だったが、噂を聞きつけた初江の父に二人は交際を禁じられる。しかしあわび取りで一番になった初江、台風の海に飛び込み船の命綱を繋いだ新治は最後には周囲に認められ、二人は祝福の中で無事結ばれるのだった。

旅の感想

三谷祐希(コミュニケーション学科4年)

話し掛けると必ず返事が返ってくるなど島民全員が親戚のような、つながりの深いところだと思いました。肩の力を抜きたいとき、リフレッシュしたいときにぜひ訪れてください。



瀬川有美(コミュニケーション学科4年)

ここに来てから、一度も携帯を見ませんでした。夜釣りや花火をしたことも楽しい思い出です。晩御飯に出た赤魚の煮付けもおいしくて、また来たいと思います。

加藤頌大(コミュニケーション学科4年)

小さい子どもがお年寄りや仲良くしゃべって、都会にはない温もりのある光景が広がっている島です。空気も新鮮で、ここに住んだら病気も治るのかも…。



吉川達朗(コミュニケーション学科4年)

山歩きを兼ねた名所巡りは暑くて大変だったけど、いい思い出になりました。料理も神島で獲れたものばかりで、とてもおいしかったです!!

山崎奈緒(コミュニケーション学科4年)

島民の方はいい人ばかり。生活のリズムもゆったりしていて、気付いたら心が穏やかになっていました。いつも何かと時間に追われる生活をしているので、のんびりできてよかったです。



大橋寛矢(コミュニケーション学科4年)

夜に開かれた飲み会では普段しゃべる機会のない他大学生の皆さんと話せてとても楽しい時間になりました。海岸で寝転がったのも忘れられない経験です!

畦地康平(コミュニケーション学科4年)

島内の大きな時計に「6分遅れです」と書いた紙が貼ってあるなど、面白いものがいろいろ発見できました。島の医療の話も知らなかったことばかりで勉強になりました。



藪木美貴(コミュニケーション学科3年)

時間がゆったり流れていて、童心に帰ることができました。海のイメージしかなかったけど山の景色も素晴らしいので、どんな病にも効きそうな島です。

大山純平(コミュニケーション学科3年)

海と山と、自然が生み出した雄大な景色が堪能できる島です。地域の人たちも気軽に挨拶してくれるなど島全体が家族のようで、仲が良い印象でした。



クローズアップゼミ 研究室探訪9



国史学科教授 上野秀治ゼミ

私は国史学科で近世(江戸時代～幕末)の研究を担当しています。研究テーマは「大名生活全般の多角的な研究」です。しかしゼミでは、江戸時代の交代寄合(参勤交代を行う旗本)の記録『享保通鑑』を精読し、史料を読み解く力を養うことを目指しています。

国史学科の学生たちが卒業論文で近世の史料を扱うとき、そのほとんどは候文(文体)で書かれています。『享保通鑑』は候文に慣れるための格好のテキストとなります。

授業の進め方は、『享保通鑑』を頁ごとに分けて分担を決め、それぞれ

の担当部分について興味を持った箇所を中心に調べさせ、順に発表してもらいます。全体を通じた指導でもっとも大切だと学生に伝えているのは「原典にあたること」です。たとえば「大目付」の意味は、辞典をひ

意味を読み解き、調べる力を育成

けば分かりますが、発表の際には「その辞典が何を参考にして書かれたのか?」というところまで踏み込んで調べさせます。歴史を学ぶときに最も大切なことは原典にあたること。インターネットで何でも簡単に検索

できる時代ですが、学生には積極的に原典をたどり、自分の目や手を使って調べようとする姿勢を持ってほしいと感じています。

史料を読むことは、一見、とても地味ですが、本人のやる気次第でも面白くなります。近世は、史料が豊富に残っており、論文や活字になっていない史料もたくさんあります。まるで「宝探し」をするように史料に触れられる、まだまだ開拓の余地がある分野なのです。学生たちには、調べる力を身につけ、歴史を紐解く楽しさをもっと体感してほしいと願っています。

学生責任編集ページ

学生記者募集!.....興味のある人は総務課まで!

K O D A I S M

FM三重「キャンパスキューブ」発 「三重の魅力伝え隊」プロジェクト 第1弾 名作『潮騒』の舞台・神島を歩く



鳥羽湾に浮かぶ神島は、三島由紀夫の名作『潮騒』の舞台として知られています。素晴らしい自然環境に囲まれ、独自の風土・文化を育んできた島ですが、その魅力を知る人は多くありません。そこで、1人でも多くの学生に神島の良さを体感してほしいと、国文学科3年の若林優一君が代表となり「三重の魅力伝え隊」を結成。プロジェクト第1弾として神島を訪ねました。

「本当の人間の生活がありさう」

神島の魅力を端的に伝えているのが次の一節だろう。三島由紀夫が川端康成に宛てた書簡の一部である。「目下、神島といふ伊セ湾の湾口を扼する一孤島に来てをります。人口千二、三百、戸数二百戸、映画館もパチンコ屋も、呑屋も、喫茶店も、すべて『よごれた』ものは何もありません。この僕まで忽ち浄化されて、毎朝六時半に起きてゐる始末です。ここには本当の人間の生活がありさうです」。

僕が神島を知ったきっかけは、高校時代の友人だ。友人の祖母にあたる方が神島の医療改革に尽力し、国から表彰されたのだという。友人の話聞くうちに行きたくなり、高校2年の夏休みに2人で訪ねることに。それから毎年、夏休みになると1カ月ほど滞在するようになった。住まわせてもらった家は長く無人となっていたため、風呂はなく電気や水道も通じていなかった。だが、困ることはなかった。島の人たちが入れ替わり立ち代りやって来て、御飯を差し入れてくれたりお風呂を貸してくれたり、見ず知らずの僕をまる



宿前の階段で記念撮影。キャンパスキューブを担当するメンバーをはじめ、県内外から多数の学生が集まった。

で親戚のように手厚くもてなしてくれたのだ。戸に鍵をかけることもなく、財布を落としても誰かが必ず届けてくれるという。今の社会においてこれほど人情に厚く、穏やかに時の流れる町があるなんて……。僕は心が洗われていく気がした。

ラジオ番組から生まれた「三重の魅力伝え隊」プロジェクト

神島の素晴らしさを1人でも多くの人に知ってほしいと思っていた矢先、僕が参加しているFM三重のラジオ番組「Campus CUBE」*のメンバーが中心となって「三重の魅力伝え隊」を結成することになった。有名な観光スポットだけでなく、地元っ子だからこそ知っている面白い場所や名所を訪ね、広く知ってもらおうというプロジェクトだ。その第1弾として、僕が強力にプッシュした「神島行き」が決定。募集をかけたところ計24名の学生が参加することになり、1泊2日のプランがまとまった。



(上)神島の共同井戸。今でも使われている。
(下)かき氷を食べ涼んでいる島の子どもたち。

*「Campus CUBE」は県内の4大学(皇學館、三重大、鈴鹿医療科学、県立看護)の学生15人がパーソナリティーを務め、学生ならではの視点で大学や地域の話、情報を発信している番組。FM三重で毎週金曜午後8時30分から25分間放送している。

自然とともに生きている島

8月17日から18日にかけて、神島プロジェクトがいよいよ始動した。鳥羽から船でおおよそ50分。伊良湖岬が前方に見えてきたら到着だ。朝から太陽がガンガン照りつける猛暑日だったため、午後から山に点在する名所を周る予定を急遽夕方に変更する。天候などによってプランを変えざるを得ないのも野外遊びならではの。ひいては、自然とともに生きている島の魅力につながっている気がする。

それまでの時間、過疎地医療の現状を学ぶた



「島民のいろいろな悩みや相談を受け止められる度量の広さが必要」と、僻地医療について話す小泉先生。

めに島の医師・小泉圭吾先生に話を伺った。話によると1日の平均患者数は25人。腰痛に高血圧、頭部切創、不眠症、虫垂炎…と症状はさまざま、鍼灸も手がけるとのこと。参加者の中には医療の道を志す人もいたため、とても勉強になったようだ。

その後、僕たちが滞在する宿「山海荘」の3代目・山本欽久さんがガイド役をかって出してくれ、『潮騒』に登場する監的哨や灯台など名所巡りに出発。Tシャツが絞れるくらい汗をかきしんどかったが、たどり着けば山歩きの疲れが一気に吹き飛ばす絶景が広がっており、忘れられない思い出となった。



人間中心ではなく、天気や自然に合わせて生活している島の暮らしを感じてほしいと山本さん。

人情に触れた2日間

いつもは1人で来てのんびり過ごしているため、今回のように大所帯を率いて案内するのは初めての経験だった。反省することは多々あるが、参加者が一様に「人々が親切で、心が温かくなる」と言ってくれたのが嬉しかった。短い期間だったが、神島のいちばんの魅力である「人情」に、多少なりとも触れてくれたのだと思う。これからは島の良さを伝えるために、僕なりにできることを実践していきたい。



「どこから来たん?」と気さくに話し掛けてくれる島の人たち。



若林優一(国文学科3年)

姉妹校提携を更新

オーストラリア語学研修旅行を実施

第九回オーストラリア語学研修旅行が二週間(七月二十六日～八月八日)の日程で今年も実施された。多田真二教頭を団長とする一行十二名(生徒九名、随行教員三名)は七月二十六日、中部国際空港を出発。二十三時間に及ぶ長旅の後、メルボルン近郊にある姉妹校ローズヒルセカンダリーカレッジに無事到着し、研修の最終日である八月六日の夜には姉妹校主催のフェアウェルパーティーが開かれた。その中で、今回の訪問の主目的ともいえるべき姉妹校提携更新の文書への調印がビクター・ラウス校長と多田教頭の手によってなされた。最後にパーティ参加者は共に過ごした十日余りの時間を振り返ると共に将来の再会を約束し、更に友好を深めた。



メルボルン動物園前で記念写真

翌二十八日からは、語学研修プログラムに参加。ホスト生と共に授業への参加やESLによる特別授業の聴講、また校外研修に出かけたりと現地の活動を楽しんだ。研修の最終日である八月六日の夜には姉妹校主催のフェアウェルパーティーが開かれた。その中で、今回の訪問の主目的ともいえるべき姉妹校提携更新の文書への調印がビクター・ラウス校長と多田教頭の手によってなされた。最後にパーティ参加者は共に過ごした十日余りの時間を振り返ると共に将来の再会を約束し、更に友好を深めた。

第48回 皇高祭



オープニングの祭典

九月十六・十七日の二日間「魅せろ！」のテーマのもと皇高祭が開催された。一日目は生憎の雨混じりとなったが、伊勢市観光文化会館で祭典に続き吹奏楽部による演奏、午後からは探検家・高橋大輔氏による「物語を旅する」の講演、笑福亭鶴笑・桂福丸両氏による落語が上演され、特に鶴笑師匠のパベツト落語は抱腹絶倒ものでみなその話芸を楽しんだ。二日目は場所を本校に移し、例年通りクラス展示、模擬店、クラブ展示と各クラス、クラブともその団結力・日頃の練習の成果を発揮した。また第三体育館では有志によるバンド演奏、野球部のスペインタルタンスが行われ、皇高祭は盛況のうちに終了した。



有志によるバンド演奏



書道部による展示



吹奏楽部による公演



たこ焼きの模擬店(2年2組)

皇高NEWS

農業体験にワクワク

平成二十二年 一年生宿泊研修

八月二日から二泊三日の日程で一年生がモクモクファームで宿泊研修を実施した。現地に着くと、さっそく牛の説明がクイズ形式で出されるなど生徒たちは楽しく学ぶことができたようだ。天候にも恵まれ、野外レクリエーションは大縄跳びや二人三脚などチームワークを必要とする活動を行った。全員で声を掛け合い協力し、学年全体で団結力を高めることができた。校長先生から令旨の解説、教頭先生からは教育勅語の解説があった。



パン作り体験

モクモクファームでは普段では行えない「朝のおつとめ」があり、シイタケ狩り・馬、羊のお世話・牛のお世話と三つの班に分かれて二日目の早朝に体験することができた。その日の朝食には特別メニューとして朝に採取したシイタケの料理が登場。みんなで採った新鮮な野菜は格別で、また、小屋の掃除やエサやりなど責任を持って最後までやりとげた達成感があったのか、どの生徒も満足げな面持ちで朝食を摂っていた。モクモクファームのゆっくりと流れる時間の中、時には予定が変更になることもあったが、有意義な二日間を過ごすことができた。

学年の枠を超え拍手と声援が響く

第三十二回 体育大会

九月十九日に体育大会が開催された。午前中は清々しい風も吹き、晴天の下で生徒たちの活躍が多く見られた。午前の部の最初の入場行進は例年よりも各クラスの団結を感じさせる素晴らしいスタートとなった。競技が始まると生徒たちの声援が響き始めた。「ニコニコボール」では二・三年生はさすがに見事なバランスを見せていたが、一年生はやや苦戦。ラケットとボールの重さに四苦八苦していた。一周以上の差で先にゴールした上級生はすぐに「頑張れ!もっ少し!」と率先し



ニコニコボールで学年を超えてゴール選手を讃える感動のシーン



バンブーレース

て応援していた。最後の一人がゴールした瞬間、学年の枠を超えた拍手と声援にグラウンドが感動に包まれた。午前の部の最終、今年の保護者レースの種目は綱引きで多数の保護者の皆様にご参加いただき、会場は歓声と笑いに包まれた。午後の部では、騎馬戦から始まり得点率の高い二十人リレーまで最高潮の盛り上がりを見せた。最後に大逆転を見せたクラスもあり、二位と三位は四点差というところで喜びと悔しさの音が響いた。優勝は三年A組、準優勝は二年A組であった。

皇學館高等学校創立五十周年・皇學館中学校創立三十五周年記念事業 寄付者芳名

皇學館高等学校創立五十周年・皇學館中学校創立三十五周年記念事業募金活動は、十九年六月、正式にスタートいたしました。これは、募金活動の中心を「生徒の教育活動支援」に置いているものでありますが、八月三十一日現在の募金状況は、次の通りになっております。ご協力いただいた皆さまのご理解に感謝申し上げますと同時に、今後のご賛同・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

企業

同窓会会員

三重県 (有)青木印刷様 一万円 鈴木 隆俊様

神奈川県

三万円 山下 宏哉様
三万円 田中 廣繁様
三万円 水本 雅久様
三万円 上野 秀司様
三万円 世古口浩平様
三万円 辻 則行様
三万円 松本 鉄夫様

三重県

三万円 丸田 衛様
五千元 西山 諒様
五千元 小田 啓博様
五千元 水貝 英斗様
三千元 松本 匡史様

皇學館高等学校創立50周年・皇學館中学校創立35周年記念事業寄付金進捗状況

平成22年8月31日現在

区分	申込件数	申込金額(円)	納入金額(円)
宗教界	2	150,000	150,000
企業	41	4,190,000	4,130,000
一般 (旧教職員・篤志家等)	15	425,000	425,000
同窓会会員	147	6,826,000	6,826,000
後援会賛助会員	63	1,055,000	1,055,000
本法人関係	125	3,685,000	3,635,000
合計	393	16,331,000	16,221,000

後援会賛助会員

香川県 池田 博文様 一万円

三重県 (三万円増額)

六万円 寺田 直喜様
二万円 吉川 勝也様
二万円 飯島 信夫様
二万円 中目 孝様
二万円 池田 和則様
二万円 森口 忠様
二万円 森 昌好様
二万円 山本 修一様
二万円 中西 寿彦様
五千元 濱地 重見様

皇中NEWS

10月 2カ月イベント情報

- 3日 あつアカデミー 津市橋北公民館
倭姫命と安濃・一志郡について
岡田登 国史学科教授
- 7日 教育学会講演会 伊勢学舎
学生からオリンピック出場、そして夢のメダリスト誕生 信州大学教授 結城匡啓氏
- 9日 月例文化講座 伊勢学舎
江戸幕府と遷宮 上野秀治 国史学科教授
- 16日 月例文化講座 名張学舎
スクールソーシャルワークの可能性 福祉と教育の協働 上野文枝 社会福祉学科助教
- 21日 名張の地域文化を語る会 まちなか研究室事務局(名張学舎)
土と名張文化 地球環境の視点から 外山秀一 コミュニケーション学科教授
- 23日 史料編纂所冬セミナー① 伊勢学舎
近代文書を読む 田浦雅徳 国史学科教授
週末あそび塾 名張学舎
皇名祭特別企画「紙飛行機を作って飛ばそう!」
池田高志氏
- 24日 伊勢学舎
第11回 高校生英語スピーチコンテスト
週末あそび塾 名張学舎
皇名祭特別企画「いろいろ作ろう会」
叶俊文 社会福祉学科教授
- 27日 ちよつとちよつと講義 まちなか研究室事務局(名張学舎)
65歳からのセカンドステージ 体育学・心理学からのアドバイス 叶俊文 社会福祉学科教授
- 29日~31日 博物館学芸員課程「卒業展示」 伊勢学舎
「伊勢音頭」・「御食つ国の海女おとめ」
館史編纂室資料展 伊勢学舎
神宮皇學館大学 昭和15~21年
神道博物館教養講座 伊勢学舎
白山の自然と信仰 白山比咩神社司 村山和臣氏
- 11月 6日 週末あそび塾 名張学舎
あそびの丘 叶俊文 社会福祉学科教授
- 13日 月例文化講座 伊勢学舎
神苑会の活動と明治の宇治山田
谷口裕信 国史学科講師
- 18日 史學會講演会 伊勢学舎
伊藤若沖との出会い ジョー・D・プライス氏
名張の地域文化を語る会 まちなか研究室事務局(名張学舎)
五行思想と日本文化 野村茂夫 本学名誉教授
- 20日 史料編纂所冬セミナー② 伊勢学舎
近代文書を読む 田浦雅徳 国史学科教授
月例文化講座 名張学舎
開かれた時代の福祉を拓いた志
吉田明弘 社会福祉学科准教授
- 24日 週末あそび塾 名張学舎
いも煮と讃岐うどん作り 叶俊文 社会福祉学科教授
ちよつとちよつと講義 まちなか研究室事務局(名張学舎)
私の岡倉天心紀行:五浦、妙高赤倉、ボストン「茶の本」めぐって 池田久代 社会福祉学科教授
- 27日 神道博物館教養講座 伊勢学舎
宗像大社の歴史と信仰 宗像大社補宜 葦津幹之氏

イベントの時間・申込方法等のお問合せは各学舎まで
伊勢学舎 ☎0596-22-0201(代) 名張学舎 ☎0595-61-3351(代)

編集後記
◆今夏の残暑は厳しく長く、彼岸の頃まで真夏日が続きました。熱帯化、このような夏が毎年繰り返されていくのかと思ふところもあります。◆そんな中、倉田山の北丘に六・七・八号館が竣工しました。階上からは伊勢湾や伊勢の街並みを臨みます。白亜の外観は清涼感を醸し出し、実際に省エネ構造のエコ仕様でもあります。早速、新学期より使用されています。皇學館の歴史に新たなページの誕生です。【総務課】

英国短期留学 体験記

英国留学は素晴らしい経験となった。バッキンガム宮殿や大英博物館では英国の高貴な一面に触れた。滞在したケンブリッジをはじめ、ロンドン・バース・カンタベリーなどではその重厚な町の歴史に終始圧倒させられた。本場のミュージカル「シカゴ」には感動した。中でも特に印象に残ったのは、先史時代の遺跡ストーンヘンジだ。その石群はどれだけ居ても飽きさせない無限の魅力を放ち、ずっと以前から知っていたような懐かしさを抱かせた。一方で、シヤロックホームズやハ



八月七日(八月二十六日)にかけて、第四回英国短期語学研修が実施され、学生十一名(文学部四名、教育学部七名)がケンブリッジ大学クレアカレッジで学んだ。引率者として、豊住誠文学部教授と玉田功総務課主任が同行した。

とても身近な国となった英国

教育学科一年 坂 淑 加

最初少々気恥ずかしくもあったが、慣れてくると心地よいものであった。私にとって英国はとても身近な国となった。今回の留学は私に経験と課題を与えてくれた。英語学習の継続と共に今後も様々なことにチャレンジし、視野を拡大していこうと思う。

種・国籍の異なる先生や友達と話す機会が多かった。最初は聞き取れなかった英語が徐々に少しずつ理解でき、コミュニケーションが取れるようになる感覚は一番の収穫であった。

食べ物に関してはさほど期待していなかったが、思った以上に美味しかった。紅茶の種類は豊富ですが紅茶の国だと実感した。また、紳士淑女の国でもあった。例えば、建物に入る時、必ず先を行く人が扉を押さえて待っていてくれる。そうした何気ない習慣は、

私はこの短期留学にあって、決めたことがあった。これまで外国人と会話する機会がなかったが、語学向上のためにも積極的に話してみようと思った。今、手元には一四〇〇枚もの写真がある。キャンパス

内や街角でたくさんの人と話をし、そして写真を撮った。それぞれの写真に想い出がある。

夕食を摂ったクレアカレッジの食堂では、多くの出会いがあった。様々な国の留学生やキャンパスで働くスタッフたち：初対面の人に「十五歳ですか?」と尋ねられた時には思わず苦笑い。日本人は、実際より幼く見られる。英国伝統のパブでも入店の際に度々年齢の



一四〇〇枚の出会い

国文学科一年 日 野 志 保



ケンブリッジ大学クレアカレッジ前庭で修了証を手にする参加者たち(8月20日)。

確認をされた。英国の夏は、肌寒く、天候は目まぐるしく変化する。街を歩いていると、私たちは長袖なのに周囲は薄着の人たちばかり。少々の雨では傘を差さない。季節感・天候感の違いに驚いた。

初めての海外、英国での生活。世界の様々な人や文化の違いに触れた。英語を駆使しながらの人的交流では、自分のこれまでの価値観やものの考え方に大きな変化が生まれた。今回学んだことを今後の大学生活に活かしていきたい。

せんぱいトーク&ホームカミングデー

11月27日(土) 名張学舎
せんぱいトーク(10時~12時) ●就活中の学生にとって先輩の経験談やアドバイスは大きな励み。卒業生の皆様にぜひご協力をお願いいたします。

ホームカミングデー(12時~、受付は11時30分~) ●来年の移転に伴い、これまでの歩みを振り返り語らう機会を設けました。懇親会や講演会、卒業生と教員によるグループ懇談などを予定しています。奮ってご参加ください。

いずれも参加申込みは11月17日(水)までにファックス(FAX0595-61-3378)、もしくは返信用封筒にてお知らせください。詳しくは就職課(TL0595-61-3371)へ問合せを。

皇名祭(名張学舎)

10月23日(土)・24日(日) 入場無料
23日は女性ユニット「LOVE」によるアーティストライブ、24日にはのび太くん役の声優・小原乃梨子氏による講演会が行われます。

倉陵祭(伊勢学舎) 10月29日(金)~31日(日) 入場無料

ロックバンド「サカナクション」によるアーティストライブ(30日)のほか、ミスコンやチャリティーバザーなど楽しいイベントが満載です。

イベントのご案内

この秋、皇學館では楽しいイベントや各界の著名人を迎えての講座がめじろおし! 学生も一般市民の方も、この機会に奮ってご参加ください。

『国家の品格』の著者 藤原正彦氏による 教育講演会

演題●日本のこれから
「日本を真に再生し力を取り戻すには、戦後失われてきた祖国への誇りと自信を取り戻すこと以外にない」——そう語る著者とともに、日本の未来像を考える講演会です。

12月4日(土) 14:00~15:30
四日市市総合会館 8階 視聴覚室 入場無料
要予約 ご予約は本学HPからお願いいたします。
http://www.kogakkan-u.ac.jp/

ビジネスプランコンテスト 皇-1グランプリ

応募締切 11月24日(水) 13:00必着
若者(大学生・高校生)による、地域社会を元気付けるビジネスプランを大募集します! 詳しくは学務課(☎0596-22-6315)まで問い合わせを。

現代日本塾(秋日程) 皇學館大学伊勢学舎2号館

神都・伊勢から21世紀の課題を解決すべく、春から行われている「現代日本塾」。その秋からの日程が決まりました。

- 第5回 10月14日(木) 16:20~17:50
経営コンサルタント 武田 秀一 先生
演題●地域社会を元気づけるビジネスプランとは
- 第6回 10月21日(木) 16:20~17:50
国立新美術館長 林田 英樹 先生
演題●文化力競争時代の日本の針路
- 第7回 11月25日(木) 16:20~17:50
(株)中部電力会長 川口 文夫 先生
演題●グローバル経済と日本人の思惟
- 第8回 12月17日(金) 16:20~17:50
(株)JR東海会長 葛西 敬之 先生(本学客員教授)
演題●日本における政治的リーダーシップの衰退(仮)

予約不要 入場無料